Life runneR in Takashima
2021年3月発行

取材／滋賀県立高島高等学校・滋賀県立安曇川高等学校
生徒 有志11名
取材協力／市内事業者の皆さん
企画・制作／LYS株式会社

高島市役所 市民生活部 市民協働課 定住推進室
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565
TEL:0740-25-8526 FAX:0740-25-8156
Mail:kyoudou@city.takashima.lg.jp

Life runneR in Takashima

～10人の物語～

インタビュー企業MAP

高島市内の様々な業界と仕事

今回、インタビューさせていただいた人たちの働く場所をMAPにしました。

01 SAWAMURA（建設業）

02 藤波こども園（保育）

03 高島市役所（公務）

04 和ろうそく大與（伝統工芸）

05 松井建設株式会社（林業）

06 株式会社リハビリライフ（介護）

07 医療法人マキノ病院（医療・看護）

08 株式会社ヤサカ（福祉用具・食品）

09 Northstyle奥琵琶湖（アウトドア）

10 株式会社ホリゾン（製造業）

（ライフランナー）

Life runneRに込められた想い

仕事を通じて、人生を格好よく駆け抜ける Life runneR（ライフランナー）
高島市には左（Left）にも右（Right）にもたくさんの素敵な人たちが活躍しています。
そんな人たちの働き方を多くの人に知って欲しい。そんな想いからこの冊子のタイトルを付けました。

01 各業界から サガス

私たちが通う高島市には様々な業界、仕事があることがわかりました。自分たちで話し合い、できるだけたくさんの企業、役職の方をピックアップしました。

02 対話の中から ミツケル

その企業で働く”人”にフォーカスし、1問1答形式のインタビューでなく、会話（対話）の中から、仕事の魅力やその人の人生観などを引き出すように工夫しました。

03 動画でも ツタエル

文字で紹介できる内容は限られるため、対話の中からおもしろいと思った部分や心に触れた内容は動画でも撮影しました。QRコードを読み込むとその動画を閲覧できます。

（高島高校生 取材・執筆）

01 Interview

SAWAMURA 代表取締役
澤村 幸一郎 さん

きっかけを創造する

建設会社の社長として働く澤村さん。代表的な建築物にびわ湖テラスやびわこ箱館山のパフェ専門店LAMPなどがある。掲げているテーマは『きっかけを創造する』。建築を通じてお客様にワクワクを提供したいのだそう。そのために目標を明文化しているようだ。また現場との接点を多く持つことを意識していると語る。

なぜならアイデアは現場から生まれると考えるから。社員にフラットに関わることでコミュニケーションを増やしているという。現在の社内のアットホームさもこれによるものが大きいようだ。一言では言い表せないものを作っていくことが私たちの仕事だと語る。新たなきっかけを生み出すために、これからも挑戦は続く。

（安曇川高校生 取材・執筆）

02 Interview

藤波こども園 保育士
家本 侑奈 さん

自分らしく 子どもに寄り添う

元々子どもが好きで、中学校の時の福祉体験で藤波幼稚園に行ったとき、年上の子が年下の子に優しくかかわっている姿を見て、自分も子どもたちを守っていきたいと思い就職した家本さん。こども園は、0～5歳の子どもを受け入れており、3～5歳の幼児には縦割りで保育をしている。この場所は自分から主体的に動いて輝ける場面がたくさんある。だから、子どもたちが自分らしくありのままの姿で安心して楽しく過ごせるように、どんなときも子どもたちの思いに寄り添うことを心掛けているそう。将来は、「高島の自然とともに、地域・職員・保護者の人に助けてもらいながら、一緒にこの高島で子育てしていきたい」と穏やかな表情で語る。

（高島高校生 取材・執筆）

03 Interview

高島市役所 企画広報課
堀居 祐圭 さん

あなたは地元が好きですか？

過疎化しつつある高島市の力になりたいと思い市役所に就職した堀居さん。現在は企画広報課で広報誌の作成、防災行政無線のアナウンスをしている。幅広い年齢層の方が聞き取りやすい声質、スピードを試行錯誤する毎日。事務仕事では多くの仕事をこなすために時間配分を重視。現在の目標は様々な仕事に対応できる力を身につけること。なぜなら、公務員は3・4年で必ず部署異動をするという特徴を持つから。公務員として多くの人と関わる中で、高島市の魅力を再発見しているそう。それをもっといろんな人に伝えたいという。将来は、子育て支援が充実している高島市で結婚し育児したいと笑顔で語る。今日も、市民に情報を正確に届けている。

（安曇川高校生 取材・執筆）

04 Interview

和ろうそく大與 4代目
大西 巧 さん

「火と人」をコンセプトに信念をもってチャレンジ

自分が本当にやりたい仕事をしたいと思っていた大西さん。いろいろな企業にいる先輩などに話を聞いた結果、父親のろうそくの話が一番面白かったため、京都のお香屋さんで3年の修行を経て、大與に。仕事はろうそくを一から作って販売すること。灯という漢字が表しているように「自然と人を繋いだもの」をコンセプトにした商品を多く作っている。単純にろうそくを作るだけでなく自然を感じられる要素を残して伝えられるデザインのろうそくを作っているそう。売れるかどうかわからないものでも、信念をもってチャレンジしていく。大手企業ができないところに挑戦し、世界の人にろうそくを使ってもらうことが目標だと熱く語ってくれた。

（安曇川高校生 取材・執筆）

05 Interview

松井建設株式会社 COO
梅本 匠 さん

常に出口を意識する
（着地点）

中学生の頃から将来は林業に携わりたいと考えていた梅本さん。林業の仕事の内容とは、山に入り木を切って製材すること。しかし、木を伐採する林業だけでは生業にならないと言われ、木を使用し、家を建てる大工の仕事を始めた。今でも林業を生業にするために、木がどのように需要があるのかを常に意識している。例えば高島市には上質な木がたくさんあるものの、「高島杉」のような名前のついたブランドはまだ存在しない。それらがブランド化されることで需要が増え、より多くの人に木を使ってもらえるように日々取り組んでいる。大工、製材商、伐採する人たちの視点が交わって、新しい仕事や商品の開発に繋がることがこの仕事の魅力だと語ってくれた。

（高島高校生 取材・執筆）

06 Interview

株式会社リハビリライフ 生活相談員
岸田 ひとみ さん

心まで利用者に寄り添う仕事を

介護福祉施設で生活相談員として働く岸田さん。利用者との相談や介護福祉サービスの提携を行っている。なにかを『してあげる』のではなく『できるようにする』のが介護で、利用者は決して受け身の存在ではないと語る。近年、介護保険制度が充実してきている。しかし、職員が足りていないのが現状であると強く訴える。原因はキツイ・キタナイなどのイメージの先行。だがメリットとして自身のライフスタイルに合わせられ、職場復帰しやすく、経験が武器になるなどを挙げてくれた岸田さん。高齢化社会において必須である介護職。若い世代の人たちに介護の実状を知ってほしいという。充実した生活を提供できるようにと利用者に寄り添う。

（安曇川高校生 取材・執筆）

07 Interview

医療法人マキノ病院 看護師
萬木 佑多子 さん

心がけているのは 積極的な挨拶

看護師に向いている人は、物事をはっきり判断でき、自分の意見を相手に言えることができる人。それは働くうえで自然に身につくことだから、興味のある人は誰にでも向いている仕事だと萬木さんは語る。つらいと思う時は、患者様の病気が見つかった時。先生から患者様のご家族への病状説明は何度立ち会っても慣れない。

しかし、患者様が名前を覚え、声をかけてもらえた時はそれだけで頑張ろうと思える。患者様への積極的な挨拶はもちろん、スタッフや、ご家族の方への挨拶、コミュニケーションも日々、意識して取ることを心がけている。今後の目標は、何事にもすぐに対応できる看護師になることだと教えてくれた。

（高島高校生 取材・執筆）

08 Interview

株式会社ヤサカ 代表取締役
八坂 肇 さん

すべての人に 快適な生活を

福祉用具のレンタル・販売、介護リフォームを手掛けている会社を経営している八坂さん。今後ますます増えていく自宅で生活する高齢者。それに伴い、快適に過ごす手助けとなる福祉用具の提供により、健康寿命の延長を図りたいと八坂さんは語る。また、近年ではアレルノン食品の販売にも力を入れている。アレルノン食品とはお米由来の乳酸菌と湧き水で作られた発酵食品のこと。法定アレルゲン28品目不使用なので、多くの人が食べることができる。腸内環境が良くなり、免疫力向上が見込めるという。今後の目標は多くの人にアレルノン商品を手に取ってもらい、健康で楽しい生活を送ってもらう事だと熱く語ってくれた。

（高島高校生 取材・執筆）

09 Interview

Northstyle 奥琵琶湖 代表
古谷 仁一 さん

アクティビティの楽しみ方は無限大

民宿を営む傍ら、レジャースポーツのインストラクターをしている古谷さん。この7月から9月をメインに扱うのはＳＵＰ。ＳＵＰとはハワイ発祥のアクティビティの1種で、ボードの上で立つ、座る、寝るといった様々な体勢をとって楽しむことができる。水上で楽しむスポーツなので、風向きなど安全確認を徹底しているという。お客様に楽しんでいただく秘訣は自分自身が楽しむこと。地元の人は、身近なところで遊ぼうという感覚をあまり持っていないと感じている古谷さん。地域の魅力をたくさんの方に届けるために、ＳＮＳで精力的にＰＲしている。もっとたくさんのお客さんに来てもらうのが、今後の目標だと教えてくれた。

（安曇川高校生 取材・執筆）

10 Interview

株式会社ホリゾン 製造部 部長
服部 康明 さん

何事にも興味、関心を持ってものづくりに取り組む

デジタルを活用したものづくりに初めて触れた時、とても感動し、ここで仕事をしてみたいと思い就職した服部さん。思いついたことは自由にチャレンジできる社風であるホリゾンは、ものづくりが好きな人にはたまらない職場だと話す。働くうえで大切にしていることは、良い物を作るためには設備ではなく、機械を扱う"人"の心がけが重要であるということ。部品一つにしても、その部品がどのような使われ方をするのか、お客さまはどのように活用したいのかまで考える。将来はこの会社でデジタルを活かしたものづくりをさらに発展させたい。そして愛着のある地元の高島市で 、次世代の人たちにものづくりの楽しみを知るきっかけを作りたいと語っていた。

learning

取材チーム11名のたくさんの気づきと学び

Production SNAP

動画撮影セット

インタビューセット

01 Selection
企業の選定について

市内企業の多さに驚いた

企業名だけではどんな仕事か分からなかった

世界進出している企業があってびっくり

02 Interview
インタビューについて

習うよりも慣れること

直接話を聞けたのでためになった

会話を継続する力が養われた

03 Editing
編集作業について

分かりやすく簡潔に

インタビュー動画はQRコードをチェック！

文章で使えるのって難しい

04 Summary
全体を通じての感想

制作できて楽しかった！

ぜひ読んで欲しい

大人の人たちと関われる貴重な経験だった！

色んな人に会って視野が広がった